

アジア研究教育ユニット 令和2年度教育研究報告書

事業課題名	次世代グローバルワークショップ
代表者名	落合恵美子、安里和晃
事業概要 (600字程度)	<p>次世代グローバルワークショップは、国際連携大学の次世代研究者（大学院生・PD 研究員等）と国際連携大学の教員が一同に会して開催するもので、世界から集まった同世代の院生や若手研究者の前で、英語で自分の研究成果を発表し、世界の第一線の研究者からコメントを貰うことで、次世代研究者の教育的効果を狙ったものである。国際会議での報告のみならず、司会など運営の経験も積み、さらに英文での論文執筆力を涵養し、ジャーナル投稿への橋渡しとなる重要な機会である。これまで、グローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の活動の一環として、「国境を越えたクラスメートをつくる」ことを謳い文句に、2008年から年に1度開催し、2013年からその活動をKUASUが引き継いでいる。今回は13回目の開催となる。開催はベトナム社会科学院との共催でベトナムで実施される。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>アジア研究教育ユニットでは、2021年11月21日（土）～11月23日（月）に第13回次世代グローバルワークショップをNew Risks and Resilience in Asian Societies and the World「アジア社会と世界における新しいリスクとレジリエンス」をテーマに開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、本学側がベトナム社会科学院を訪れることが困難となり、オンラインでの開催となった。一方で、ベトナムの新型コロナウイルス感染症の市中感染は一定程度抑えられていたことから、ベトナム社会科学院側では、対面開催となった。1日目は、Tran Thi Minh Thi ベトナム社会科学院家族ジェンダー研究院ディレクターの開催挨拶から始まり、次に、Dang Nguyen Anh ベトナム社会科学院副所長、落合恵美子 アジア教育研究ユニット長、Ha Thi Nga ベトナム女性ユニオン所長から挨拶があり、引き続き、基調講演が行われました。その後、2日間にわたって開催されたセッションでは、3つの分科会に分かれて「気候変動とレジリエンス」、「ジェンダー平等」、「婚姻と家族」、「アジアにおける社会保障・人間保障と人権」等のテーマで、若手研究者35名による報告が行われた。ベトナム、日本、インド、シンガポールなど15カ国から、各分科会を合わせて298名の参加があった。参加者からは「独自性の高い研究がみられた」、「新しいネットワークが形成された」、「学術と政策当事者とのつながりができた」等の感想が寄せられた。来年度は、場合によってはオンラインかハイブリッド方式で、京都で開催の予定である。</p>